

第3回淀川水系流域委員会を傍聴させていただきましたが、我々庶民には結婚式でさえ手がでないような豪華な会場でびっくりしました。

前は平日夜7時からというということで、サラリーマンなどの傍聴を考慮なさり、交通アクセス等の面からターミナル駅の駅前という条件から、有名ホテルの大広間という選択となったと解釈しました。

今回の平日の昼間という時間設定は、一般社会人の傍聴にはかなり制約があり、どのような判断からこのような時間設定にされたのか疑問を感じますとともに、上記私どもの解釈が誤りであったことを悟りました。

当方としましては、河川の自然環境の保護や沿岸地域の安全面の問題は十分重要性を感じているところではありますが、河川行政においても財政面を重視すべきと考えております。

瑣末な問題と思われるかも知れませんが、会場の設定ひとつをとりましても贅沢ではないかと考える姿勢が必要なのではないでしょうか？

また、民間企業への委託により当委員会が開かれたものであるとの印象を与える効果を狙っておられるように推察されますが、庶務のような職務こそ行政マンのマンパワーを活用すべきであり、受託料が相当高いのが明らかな一流どころのシンクタンクを使うなど私どもには経費の無駄使いとしか思えません。

私どもは流域委員会に大いに期待しております。まだまだ始まったばかりでありますし、運営方法を改めて頂きたいようお願い申し上げます。

( このご意見については、庶務より会場選定や開催日時設定の考え方やこれまでの経緯についての説明文を返信しました )